

公の施設目標管理シート（直営）

年度	令和7年度		
施設名	新潟市岩室地区公民館	所管部・課	新潟市中央公民館
施設の設置目的	市民のために、實際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とします。		

問合せ先	
------	--

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	R7.7.25
歳入	613	正職員	3	修正日	
歳出	10,779	会計年度任用職員	1	評価日	R8.7.24

No.	視点	目 標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評 価	
			項目	R4実績	R5実績	R6実績	R7目標					R7結果
1	市民	学習施設として、広く市民の方から目標値以上に利用してもらうことを目指します。	年間利用者数1万人以上(単位:人)	9,847	10,949	11,121	10,000	10,916	岩室・間瀬公民館の利用者数(事業数や職員数を踏まえ、昨年度目標と同数)	岩室地区公民館 10,832人 間瀬公民館 84人	設備故障で一部貸館不可。コロナ過前のように活動も徐々に戻りつつある。利用者は横ばい。	B:達成
2	市民	地域コミュニティづくりをすすめ、地域団体(コミ協、自治会、育成協、など)と共に学習の場を作ります。	地域団体等との連携事業数(単位:件)	4	4	5	4	9	岩中文化部、保育園、民俗史料館友の会、児童館、公民館活動団体、民間企業、育成協、コミ協、おもちゃ病院	岩公まつり、親子ミニ門松作り、おもちゃ病院	地域団体等と連携・協力しながら事業を実施	A:達成(優)
3	市民	地域と学校と協働した講座を開催し、ネットワークづくりを支援します。	出前型講座(単位:回)	1	1	2	2	1	会場:小学校1	ポッチャ体験会	地域教育コーディネーターと連携を図り、学校を会場に実施	C:未達成
4	財務	効率的な施設運営を行い経費削減に努めます。	運営コスト(1人当たりの光熱水費)300円以下(単位:円)	375	368	360	370	357	光熱水費(灯油、電気、ガス、水道)の1人当コスト(岩室・間瀬公民館)(昨年度目標と同数)	電気 2,150,780円 灯油 1,307,569円 ガス 95,947円 水道 339,450円 計 3,893,746円	利用者が目標を上回り、運営コストも目標を上回ることができた。	B:達成
5	業務	災害などに迅速に対応できる体制づくり	防災訓練を年2回以上実施(単位:回)	2	2	2	2	2	防災訓練を2回以上実施する。(岩室・間瀬地区公民館)	年2回防災訓練(通報、消火、避難訓練)	11月と3月に実施。11月は利用者等とともに避難訓練を実施	B:達成
6	業務	市民の方から安心して利用していただける施設運営行い、事故防止に努めます。	施設利用者の事故発生件数を0(単位:件)	0	0	0	0	0	施設利用者の事故防止に努め発生件数0とする(単位:件)	S54年竣工の施設のため、設備関係の維持管理に重点を置く。	日常点検を行い早期発見、早期修繕を行った。	B:達成
7	人材	施設目標を達成するうえで、必要な知識やスキルの向上を図ります。	人材研修を年間3回以上実施(単位:回)	3	3	3	3	3	公民館全職員を対象に研修を実施	コンプライアンス、情報セキュリティ、ハラスメント研修	研修による再確認と職員同士の情報共有を図った。	B:達成
8	市民	公民館事業(講座)の満足度	事業終了後の満足度80%以上(単位:%)	95	92	93	90	100	令和4年度からの追加項目(講座参加者のアンケート実施)	こども体験、法律講座、岩公まつり、昆虫講座、親子ミニ門松づくり、歴史文化講座など	事業アンケート結果の平均満足度は100%となり参加者の評価は概ね高かった。	B:達成
9												
10												

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価 (評価を踏まえた課題分析・方向性など)
・地域活動・サークル活動の拠点として、地域コミュニティ活動の活性化に寄与します。 ・利用者数・稼働率の向上を目指し、市民でにぎわい親しみやすい公民館を目指します。 ・地域の人材を活用し、ボランティア講師をお願いするなど工夫して経費削減に努めます。 ・地域と学校、社会教育施設が協働する事業を展開します。	近年、公民館を定期的に利用していた団体の中には、高齢化を理由に活動を休止または縮小する団体が見受けられました。一方で、「岩公まつり」のような地域住民や地域の保育園、学校、史料館、児童館などの施設と連携し、幅広い年代の市民が気軽に参加でき、学びや交流を深める事業を実施した結果、多くの来場者でにぎわい、公民館の新たな利用につながる機会となっています。また、地域の昆虫専門家を講師に迎えて屋外での昆虫講座を開催するなど、公民館施設内にとどまらない柔軟な発想による事業にも取り組みました。こうした取組により、施設の稼働率向上に努めた結果、公民館全体の利用者数はおおむね横ばいで推移しています。 今後も、利用者アンケートや地域の声を丁寧に把握し、ニーズを的確に反映した講座や事業の企画・実施に努めます。また、より効果的な広報手法を工夫し、新たな利用者の獲得と公民館のさらなる活性化につなげてまいります。 一方で、公民館施設の老朽化は年々進行しており、修繕や設備更新を必要とする箇所が増加しています。今後も、必要な修繕や更新を計画的に実施するとともに、効率的な施設管理を行い、可能な限り経費の節減に努めてまいります。